

少年は戦場へ旅立った

ポールセン作 林田康一訳 あすなろ書房

殺してやる。やつら全員だ。二度と立ち上がれないように。一人も残すもんか。一人もだ。皆殺しにしてやるんだ。――やつらに殺される前に――チャールリーはわれを忘れていた。自分が自分ではなくなり、野獣と化していた。南北戦争の最中、年をいつわってまで、北軍に入隊した十五歳のチャールリー。彼の心は戦場によって無残にこわされていく…。もし、自分が戦場に旅立つとしたら、そこには何が待っているのだろうか？ その答えは、この本の中にあるかもしれない。

